

2020/12/27

ヨハネの福音書 講解メッセージ③⑩

『羊がいのちを得、またそれを豊かに持つ』ヨハネ 10:1-10

■人はイエス・キリストを通して救われる

「まことに、まことに、あなたがたに告げます。羊の囲いに門から入らないで、ほかの所を乗り越えて来る者は、盗人で強盗です。しかし、門から入る者は、その羊の牧者です。門番は彼のために開き、羊はその声を聞き分けます。彼は自分の羊をその名で呼んで連れ出します。」(ヨハネ 10:1-3)

イエス様は、多くのことを、たとえを用いて話されました。この「羊」は「人間」を、「門」は「イエス様」を表します。すると、「イエス様から入る者は、その人の牧者である」となりますが、どういう意味なのでしょう。

私たちは、人としてこの地上に来られた救い主のお姿を見て「イエス様」と呼んでいます。ですから、人となったイエス様が門となって、この世にキリストを迎え入れ、そのキリストが私たちに呼びかけ、連れ出してくださるということなのです。つまり、ここでは、人としてのイエスと、神であるキリストが区別されているのです。

いずれにしても、人は、イエス様を通して、神ご自身を迎え入れるのです。イエス様はこのことを、次のようにも語っておられます。

「まことに、まことに、あなたがたに告げます。わたしのことばを聞いて、わたしを遣わした方を信じる者は、永遠のいのちを持ち、さばきに会うことがなく、死からいのちに移っているのです。」(ヨハネ 5:24)

私たちが住んでいるこの世界は死の世界で、神がおられる世界はいのちの世界です。キリストは、私たちが死の世界からいのちの世界に連れ出すために、人としてこの地上に来られました。これは最も重要な神の福音ですから、いずれのみことばでも「まことに、まことに」と、イエス様は語っておられます。

「彼は、自分の羊をみな引き出すと、その先頭に立って行きます。すると羊は、彼の声を知っているので、彼について行きます。しかし、ほかの人には決してついて行きません。かえって、その人から逃げ出します。その人たちの声を知らないからです。」(ヨハネ 10:4-5)

キリストは、先頭に立って私たちが連れ出してくださいます。「羊は、ほかの人には決してついていかない」とは、いったん連れ出された者は、決してキリストから離れることはでき

ないということです。

「わたしの羊はわたしの声を聞き分けます。またわたしは彼らを知っています。そして彼らはわたしについて来ます。わたしは彼らに永遠のいのちを与えます。彼らは決して滅びることがなく、また、だれもわたしの手から彼らを奪い去るようなことはありません。」(ヨハネ 10:27-28)

イエス様は、一度救われたら、その救いは確定し、決して滅びることはないと言っておられます。これに反して、罪を犯し続けるならば救いは取り消されるとか、救いを達成するためには良い行いをしなければいけないと主張する人たちもいますが、そのようなことはあり得ません。救いは、信じることで完成するのです。行いがなければ完成しないなら、救いは行いによることになってしまいます。イエス様と弟子たちは、行いによるのではなく信じることによって救われる、という真理を伝えるために戦い続けました。

救いは行いによると考える背景には、クリスチャンになったら罪を犯さなくなるものだという勘違いがあります。しかし、決してそんなことはありません。むしろ、前よりも自分の罪深さを知るようになるものです。その結果、救われる前の生活と何も変わらない自分を見て、こんな自分がクリスチャンだなんてあり得ない、自分は本当に救われているのかと不安になるクリスチャンが多いのです。

しかし、ここで視点を変える必要があります。罪を犯す自分を見て、それを否定的に感じるのは、あなたは本来良きものであることを表しています。否定の否定は、肯定です。困難にぶつかるとか罪を犯すとかいう否定的な状況にあなたが苦しむということは、本当の姿は良いものであるということなのです。罪に苦しむ人ほど、誠実な人です。良きものであるがゆえに、否定的な出来事を否定するわけです。本当にダメなものだったら、困難にぶつかったり、罪を犯したりすれば、元気になるはずです。私たちが行いができない者をダメだと思ってしまうのは、実は、あなたは良きものであることの証しでもあるわけです。

「イエスはこのたとえを彼らにお話しになったが、彼らは、イエスの話されたことが何のことかよくわからなかった。そこで、イエスはまた言われた。「まことに、まことに、あなたがたに告げます。わたしは羊の門です。わたしの前に来た者はみな、盗人で強盗です。羊は彼らの言うことを聞かなかったのです。わたしは門です。だれでも、わたしを通して入るなら、救われます。また安らかに出入りし、牧草を見つけてます。」(ヨハネ 10:6-9)

先ほど、イエス様は「私を通して出る」と言い、ここでは「私を通して入る」と言っておられます。それは、羊から見ると、門を通過するとは死から出ることであり、イエス様の視点から見ると、いのちに入ってくることになるからです。イエス様を通して神の国に入ることが、羊の視点、イエス様の視点それぞれから語られています。

■羊がいのちを得、それを豊かに持つ

「盗人が来るのは、ただ盗んだり、殺したり、滅ぼしたりするだけのためです。わたしが来たのは、羊がいのちを得、またそれを豊かに持つためです。」(ヨハネ 10:10)

イエス・キリストは、ご自分が来られたのは、第一に羊がいのちを得るためであると言われました。それは、私たちが永遠のいのちを手にするということです。イエス様は、次のように言われました。

「その永遠のいのちとは、彼らが唯一のまことの神であるあなたと、あなたの遣わされたイエス・キリストとを知ることです。」(ヨハネ 17:3)

永遠のいのちとは、狭い意味ではイエス・キリストを指す言葉であり、イエス・キリストを知る者になるということです。どうすれば、イエス・キリストを知る者となれるのでしょうか。

私たちのからだは、死の世界に属しています。ですから、この世界のことは認識できませんが、この世界に属さない神の国のことを理解することはできません。人は皆、神のいのちによって造られたので、神の愛を知っていて神を求めているのですが、死の体に属した状態では神を認識することはできません。そのため、神は本当にいるのだろうかと不安を感じています。神の国を認識するには、神の国に属する朽ちない体を必要とします。それが霊のからだです。霊のからだを着せられることによって、人は神の国の情報を確認できるのです。御言葉を聞くことで、キリストを知ることができるのは、霊のからだを着せられて神に属する者となったからです。

霊のからだを着せられてイエス・キリストを認識できるようになると、肉の体で出会う相手の存在について確信を持つと同じように、この方が救い主だと言えるようになります。永遠のいのちを持つとは、霊のからだを着せられることであり、その結果、今まで確認できなかったキリストを知ることができるようになります。これが、イエス・キリストと出会うということです。

イエス・キリストを知ったあなたに神が望むことは、キリストとさらに豊かな関係を築いてほしいということです。人間同士の関係でも、ただ挨拶をする程度の関係から、共に出かける友人、さらに自分の気持ちを正直に打ち明けられるほど信頼できる関係へと成長します。あなたと神との関係はどのレベルでしょうか。イエス様は私たちが友と呼ぶと言われました。あなたはイエス様と友としての関係を築こうとして関わっているのでしょうか。

イエス様は「私を信じなさい」と言われました。「信じること」、それが神を愛することであり、神との関係を豊かにすることです。イエス様は、あなたとの関係を豊かなものとするを願って、いのちを与えられたのです。ですから、私たちが目指すべき方向はただ一つ、神が語られた言葉を信じることです。自分がどう思うかではなく、「神が言われたのなら信じます」と神様を信頼することが、神を愛するということです。「神を愛する」、これが第一

の戒めです。どこまで神を信頼するかは、自分で選択できます。あなたが神によって得たいのちを豊かに持つために、どこまでも信頼することを目指し、神様との密接な関りを求めて歩みましょう。

■私たちが信じるべきこと

神が私たちに信じてほしいことは、具体的には次のようなことです。

1. あなたは永遠のいのちを持っている

永遠のいのちは、これから受けとるものではなく、あなたはすでにそれを受け取って手にしています。

「私が神の御子の名を信じているあなたがたに対してこれらのことを書いたのは、あなたがたが永遠のいのちを持っていることを、あなたがたによくわからせるためです。」（Iヨハネ 5:13）

永遠のいのちとは、霊のからだのことであり、すでにそれを持っているからこそ、イエス・キリストを信じることができたのです。あなたは、死からいのちに移され、生きるものとなりました。ですから、もうあなたは死にません。このことを本当に信じることができれば、安心していることができます。

死は誰もが通過するものです。しかし、その先があるという希望があります。この希望を持つことが、神を信頼するということです。あなたは、どこまで神の言葉を信頼することができるでしょうか。もし、信じられなければ、神のことばが信じられるように祈ってください。そして戦ってください。それが罪と戦うということです。疑い・不信仰という罪と戦いましょう。神が必ず助けてくださいます。これこそが必ず訪れる肉体の死に対する備えです。

2. あなたは良きものである

私たちの精神的な苦しみ、心の苦しみは、自分をダメなものだと思うことです。私たちは、今この地上で認識している自分の姿が、本当の自分の姿だと勘違いしています。しかし、この世界は死の世界ですから、あなたの本当の姿を認識することはできないのです。

私たちの本当の姿は、時間にも空間にも制約されない自由なものです。神はその姿を知っています。この死の世界から連れ出されるとき、私たちは制約が取り去られて、その本当の自分の姿を知るようになります。それは良きものです。

神は私たちをお造りになった時、「非常に良い」と言われました。今私たちは死によって調子が悪くなっているだけで、本来の姿は良きものなのです。この真実な姿に気づかない限り、平安はありません。人は良きものであるがゆえに、ネガティブな自分の姿に苦しみを覚えるのです。もしも人間が墮落したのであれば、死の世界では元気になるはずなのです。死におびえたり、罪責感に苦しんだりするのは、あなたが良きものだからです。

「私たちは神の作品であって、良い行いをするためにキリスト・イエスにあって造られたのです。神は、私たちが良い行いに歩むように、その良い行いをもあらかじめ備えてくださったのです。」(エペソ 2:10)

これが私たちの本来の姿です。ところが、今、私たちは本来自分にできることができません。そのために苦しむ私たちのために、イエス様は十字架に架かってくださったのです。人が、人の目を気にするのは、愛されたいと思うからです。なぜなら、あなたは愛されるべきものだからです。愛されるものだから、愛を求めるのです。それを教えるために、イエス様は十字架に架かり、それによって愛を明らかにされたのです。

3. 神はいつでもあなたの味方である

何があってもキリストはあなたを見捨てません。それを信じられれば、患難の中でも希望を持つことができるようになります。

なぜキリストはあなたを見捨てないのでしょうか。それは、イエス・キリストがあなたの土台であり、体の一部だからです。だから、どうやっても離れることはできないし、捨てることができないのです。

「というのは、だれも、すでに据えられている土台のほかに、ほかの物を据えることはできないからです。その土台とはイエス・キリストです。」(I コリント 3:11)

「あなたがたは神の神殿であり、神の御霊があなたがたに宿っておられることを知らないのですか。」(I コリント 3:16)

肉の体で神を見ることはできません。しかし、霊のからだを頂いた私たちは、イエス様を知るようになりました。イエス様のことが真実です。その方が、あなたの中に神が共にいて、神と一緒に生きていと語っておられます。これをどこまで信じていることができるでしょうか。

私たちがこの地上で目指すべきは、神が言われた一つ一つの言葉を信頼することです。あなたは永遠のいのちを持っていて死ぬことはなく、良きものであり、神はどこまでもあなたの味方であること、これを信頼することが、神が私たちに約束しておられる安息です。この安息の地を目指して生きることが神の計画なのです。

神は、神との関係を豊かなものとするために、いのちを下さいました。自分が神の言葉を信頼する方向に向かっているか、何のためにいのちを与えられたのかを確認して生きましょう。困難な中にあっても神の慰めを知り、すべてが益と働いて、永遠の宝を手にすることができると信じましょう。あなたが手にする永遠の宝、それは、信仰と希望と愛です。すべて神を信頼することによって手に入れる宝です。永遠の宝を蓄えましょう。この世の富は朽ち果てるが、神を信頼する宝は朽ちることなく、私たちに豊かにしてくれます。